第２回美術館協議会　協議会委員の意見欄

① 令和３年度の事業予定について

・昨年度中止になった展覧会を開催するのは良いと思う。美術館が公に機能、活動していることを改めて周知することにもつながる。また、企画展としての内容も非常に興味・関心が持てる内容だと思う。夏季以降の特集展も期待が持てる。収蔵・寄贈作品の展示は例年行っているが、市民のための、市民による美術館（作品）という観点からも継続して実施されることは重要だと思う。COOCA の展覧会は注目に値する、ボーダレスが取り上げられることの多い昨今において（本来ならば改めて取りざたすることではなく、当たり前になってしかるべきなのだが）、アウトサイドなアートを広く知らしめる意義は大きい。個人的にも楽しみにしています。

・まず、開館 30 周年についてお祝い申し上げます。

今年度に新型コロナウイルス感染症の影響で、実施できなかったふたつの展覧会「柳原義達展」と「川瀬巴水展」が予定されていることは、職員ならびに関係者皆さまの努力が報われることであり、また市民の期待にも応えることであるため、喜ばしく思えます。この彫刻と版画の展覧会に加え、令和 3 年度には地域の障害者福祉サービス事業所 Studio Cooca と連携した展覧会が計画され、結果的にバランスの取れた展覧会事業を構成していると考えます。

教育普及事業については、この厳しい状況下でも、基礎自治体の施設として地域に密着した積極的な姿勢に好感が持てます。くれぐれも十分な感染対策を図りながら、無理なく実施していただきたいと思います。

・計画どおりに実施できることを願うところです。

・コロナ感染拡大の様子を見ながらの事業展開は、ご苦労も多いことと思います。その中でもできることにチャレンジしていくことが市民の中心に“元気”を送ることになりますので、大いに期待しております。

・令和 2 年度の企画展や特集展（川瀬巴水展、柳原義達展）がコロナウイルス感染で中止されたものがほとんど移行ですネ。「平塚美術館開館３０周年記念」展として“計画されていたものを荒井寿一コレクションのみで再構成した”との事。期待したいと思います。「３０年間の美術館」の流れの紹介はないのですか？

・令和３年度もコロナウイルス感染予防の対策に多くの労力をかけることになると思いますが、平成２年度の経験を活かした事業展開をよろしくお願いします。

上半期の企画展「柳原義達展」「川瀬巴水展」については、単にリターンマッチとして終わらせないよう、盛り上げる工夫をしていただければと思います。

教育普及事業では、より多くの市民が親しみを感じ、リピーターが増えることを期待しています。

② 今後の美術館について

・混乱の昨年度に引き続き、今期もまだ見通しが定まらない状況といえる。そうした状況下における活動、展開は新たなフェーズを迎えていると思う。美術館に限ったことではないが、公に知らしめる媒体としての方法、手段、役割について柔軟にとらえ、新たな試みを行ない、従来とは違うカタチでのつながり方を模索していくべきだと思う。

・30 年の美術館活動継続は、職員皆さまの努力と市民の理解があってのことと思います。今後もぜひ市民に愛される施設運営を続けてください。そして、それを持続させるには、設備のメンテナンスも重要です。「趣のある」なら良いのですが、「古ぼけた」印象では魅力に欠けてしまいます。築 30 年を迎えて、時代に沿った改修等も計画されているのでしょうか。

・コロナ禍において、美術館はどうあるべきなのかを考えさせられた 1 年でした。今後、コロナ感染防止を含めて SGDｓについて美術館としてどう関連づけて取り組んでいけるか、検討することも必要かと感じます。（例）野菜を使ったクレヨンづくり、牛乳パックリサイクルによる紙漉き etc.

・ぜひ、市内の小中学生が本物にふれる体験ができるよう、働きかけていただきたいです。公共の交通機関の活用では、時間的にも厳しい学校が多いことでしょう。市立美術館をもつ強みを平塚の公教育の強みにできるようにしてほしいと願っています。

例）市の借上げバスを各校に充て、９年間で１度は美術館を訪れ、学ぶ機会をもつ。

・今迄に経験した事のないコロナウイルス感染時代を迎えてＩＴ時代にふさわしく変化しました。リモートワーク、オンライン化、どの位浸透するのか、この状態が続くのかわかりません。たぶん便利で進化したものは残り、時代には逆らえません。両方が存在するのだと思います。今迄以上に実物大を直に見、ギャラリーに直接足を運ばなければ得られない物を見せる事が美術館に求められているのかと思います。何であれ、人の心を動かす感動を！！

・企画展の鑑賞やワークショップへ参加など目的がはっきりしていて美術館に来るというのが一般的と思いますが、目的が無くても気軽に立ち寄れる雰囲気づくりが大切ではないかと思います。

例えば、文化ゾーンにある図書館、博物館、公園などに遊びに来た子どもたちが、美術館は入りやすいので、ちょっと行ってみようかという気になればと思います。

③ 美術館協議会について

・上記②にも関連することですが、新たな活動に寄与するような人材を招くことはできないでしょうか。僕の様な（学識経験者というポストではありますが、お飾り的な存在でしかありません）者ではなく、立場やポストよりも、新しい美術館の活動に必要とされる能力、新たな視点・観点をインスパイアしうる人材をメンバーに加える必要を個人的には感じています。

協議会の役割も、社会と共に変化する必要（より社会実装的な）があるのではないでしょうか。

・新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度前半には休館期間があり、また協議会

も書面による開催となりました。市内に居住していないことから、残念ながらやや距離感を感じました。状況が改善して、職員、委員の皆さまとお話ができることを期待しております。
・様々な立場の方々の意見をお互いに出し合い、聴ける場として大変価値あるものと考えます。学校教育と美術館の更なる連携を期待します。
・いろいろな方の考えをうかがう良い機会でした。ありがとうございました。
・平塚美術家協会の会長になって、はじめて協議会委員になりました。不慣れのため、進行が早くテンポに追いつきませんでした。大人対象だけでなく赤ちゃんから小さな子どもまで、いろいろな年齢層まで努力しているのを感じました。美術館の参加したワークショップや行った感想など身近なコラムやメディアにどしどし紹介され、もっと美術館が身近になって欲しいと思っています。私の周りを見ると、美術館に割と行っていない様な感じがします。
・個人的には美術作品の解説をしていただけるので、感謝しています。